

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473200895	事業の開始年月日	平成16年3月
		指定年月日	平成16年3月
法人名	社会福祉法人まごころ会		
事業所名	グループホーム神田園		
所在地	(〒 241-0012) 横浜市旭区西川島町68-11		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年1月29日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>神田園文法を用いてお声がけする事でご利用者さまの意思決定支援と尊厳の保持に努めています。 「お手伝い」により持ちつ持たれつ、頼り頼られての関係の構築に重点を置いて活動しています。 また、上位の承認欲求に対して日本漢字検定協会の「漢検」を取り入れ、一人ひとりにあわせた勉強の支援やお手伝いをする事で日々の生活の充足感と他者から認められる・評価されたいという内面の欲求へ対応しています。</p> <p>オンライン動画研修システムを導入し2年目となりました。 2020年はコロナ感染症により外部との交流が一切中止となり、またご家族の面会もご遠慮いただくこととなりました。その補完としてオンライン面会や家族向けに毎月写真を投稿し利用者さまの日ごろの生活の様子を確認できるようにしています。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年2月25日	評価機関 評価決定日	令和3年5月5日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 当事業所は、相鉄本線鶴ヶ峰駅から徒歩10分程の閑静な住宅地に立地している。鉄骨造り2階建ての建物で、開放感のある明るいリビングは、レクリエーションを2つに分けて実施することができる程の広々とした造りになっている。管理者は、自身の目指すグループホームを作るために法人を立ち上げ、自らも夜勤に携わるなどして事業所の実情を把握している。「両親・祖父母を安心して入居させられるホームにすること」など5項目の「神田園大原則」という理念を掲げ、行動指針である「神田園文法」を定め、理念の実践に努めている。</p> <p>【思いや意向を把握し実践に繋げている】 利用者、家族、職員からの困りごとや要望、業務改善案などを書き込み提案する「リクエストシート」を設置し、意向の把握に努めている。また、アセスメントなどでも「できることは自分でやらせてほしい」等の利用者の思いを把握している。意向の把握が困難な場合は、生活歴や眼の輝き、認知症が進行するまでの過程と比較するなどして汲み取り、その情報は職員間で共有している。</p> <p>事業所内での受験が可能な事から、目標を持つ一助として「日本漢字能力検定」を導入した。6名の方が昇級に向けて取り組み、モチベーションの維持に繋げている。麻雀をできる方が3名いることが分かり、毎週金曜日を「麻雀の日」と決め麻雀のできる職員のシフトを金曜日に充てて支援し、利用者が楽しんでいる。</p> <p>【災害対策】 今年度は、7月に夜間を想定した火災訓練を実施している。また、10月には災害時食事訓練を実施し、アルファ米の試食などを行っている。災害時の備蓄品として乾電池、発電機、ブルーシート、ペーパータオル、アルファ米のカレー、ビスケット、水、米などを準備している。また、利用者個々に避難用のリュックサックを準備している。家具や家電などへは転倒防止策を施している。町内会主催の「災害支援プロジェクト」に参加して、事業所が災害時の「いっとき避難場所」の指定を受けて地域と協力関係を築いている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	あさがお

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	エントランスに掲示し常に確認ができるようになっている。神田園の大原則を基にサービスの提供が出来るように努めている。	「入居者は人生の大先輩尊厳を大切に、多くを学ぶこと」など5項目の『神田園大原則』という理念を掲げ、行動指針として「神田園文法』を定めている。採用時の面接や入職時の説明、事務所内での掲示で理念を共有している。管理者は、困難事例があった時などに理念に立ち戻るよう職員に伝え、理念のひとつである「両親・祖父母を安心して入居させられるホームにすること」を目指し実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事参加、マンドリン演奏、紙芝居の方たちに来ていただき交流しているが、今年度はコロナ感染症の影響により中止とした。	笠町内会に加入している。新型コロナ禍以前は、地域の祭りや地域ケアプラザ主催のふれあい祭りへの参加、中学生の福祉体験の受け入れ、ボランティア（紙芝居・マンドリンなど）との交流などを行っていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交わりあいを大事にし、表の掲示板に介護相談の案内を出し随時受け付けている			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去には玄関の洗面台にうがいコップ増設、防犯システム導入、危険物の保管場所に関して意見を反映させた。	運営推進会議のメンバーは、利用者の家族、町内会の会長及び副会長、地域包括支援センターの職員、事業所の職員である。新型コロナ感染防止のため今年度の会議は、書面開催とし「運営推進会議開催報告書」を偶数月に行政に提出している。		

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の月の行事や出来事をオブザーバーのケアプラ職員に報告し、地域の行事にも参加させて頂いたり地域との関係を大事にしているが今年度は中止している。	運営推進会議の書面での報告などを通して区の高齢・障害支援課に状況を伝えている。町内会主催の災害対策プロジェクトに参加した際に、オブザーバーとして参加している区の職員と交流する機会がある。	
---	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーやカメラの見守りで安全を確保している。	日中、玄関及びユニットの扉は開錠している。「ストレスが溜まると帰宅願望が表出する」など利用者ごとの傾向を把握し、体操が好きな方には「よろしければ体操のビデオを見ませんか」等と声をかけて利用者が落ち着くのを待つなど、その方に応じた対応をしている。2か月に1度「身体拘束適正化検討委員会」を開催している。センサーやカメラを設置する際は、家族の同意を得ており、現在は夜間1名の方に使用している。カメラ等で、利用者の生活サイクルを把握し、適切な排泄のタイミングを探るなど、職員間で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	メディパスアカデミー研修にて受講できるようになっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が研修をうけご家族と話をしている		

9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者がご家族やご本人に説明を行い理解、納得を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>フロア内にリクエストシートを置き、要望や欲しいものを書いてもらえるようになっている。</p>	<p>管理者ブログやSNS、ショートメールで管理者が情報発信し、家族からコメントなどを受信している。困り事や要望などを記載する「リクエストシート」を事業所内に準備して、家族から意見を聞いている。新型コロナ禍で中止になっている面会について「顔だけでも見たい」という家族の希望に応じ、ベランダ越しでの面会を開始している。</p>	

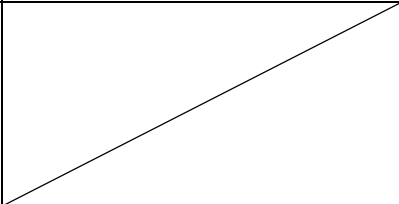
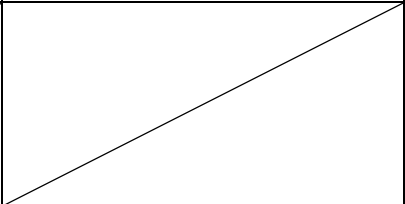
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リクエストシート、意見箱の設置。管理者は積極的にスタッフとコミュニケーションをし職員の思いや意見、家庭の悩みなどにも耳を傾けている。	年1回、個人面談の機会がある。SNSで情報を共有しているほか管理者は、日常的に職員の意見を言っている。困りごとや要望、困難事例、ヒヤリハット、業務改善提案を記載する「リクエストシート」を活用して職員の意見などを把握している。「介護ベッドと立ち上がりバーの導入を検討しては」という職員の意見を反映し、購入して提供している。管理者は「勤務上職員全員が参加する会議は不可能」との考えから全員ミーティングは行わず、個別の話し合いを重視し対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度においてより高度な介護がしたいと思う向上心にたいし支援している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場で働くうえで不安なことや心配なことがあったら、すぐに管理者に相談できるような環境になっている。		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム管理者とは、会合、地域包括支援センターのイベント、地域のイベントで交流・協働している。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いきなり何かをやる、やっていたくではなく初期の信頼関係作りを大切にしながら本人が困っている事等を伝えやすい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、体験入居時、契約の事前説明時にご家族と積極的にお話をしコミュニケーションをはかり、契約後はショートメールで気軽に意見交換ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居ありきの姿勢ではなく、見学・体験入居などで、本サービスの利用が妥当なのか一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現場での食器拭き、エントランス掃除、洗濯物たたみ等能力や健康状態に応じてお手伝いをお願いし、暮らしを共にする同士のコミュニケーションをとっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中でご家族のお話しをしたり、写真を一緒に見たり、面会時は一緒に話をしたりしてご本人とご家族の絆を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との面会時には居室やベランダでゆっくり話ができるような環境作りに努めていたが、今年度は面会制限中につきタブレットでオンライン面会ができるようになっている。	新型コロナ禍以前は、友人や知人が来訪し馴染みの関係を保っていた。また、家族の対応で、馴染みの美容院や墓参り等に出かけていたが、現在は全て中止となっている。古くからの友人と手紙のやり取りをしている方がいる。入居前からの生活習慣で、趣味の習字や麻雀を楽しむ方、行事の際にノンアルコールビールを嗜む方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りトランプやジェンガ、歌集、麻雀などのレクを行い利用者同士の交流の機会を設けている。今年度は特に外出の機会も少ないのでボール投げや体操など運動系を多めに提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去＝関係の終わりとは考えず必要があれば転院先への情報提供はもちろん相談に応じています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今日は見たい映画やテレビがあるから居室で食べたいと希望された方は居室で食べられるようにして、できるだけ希望に応じている。	日々の関わりの中で「穏やかに暮らしたい」、「できることは自分でやらせてほしい」、「麻雀がしたい」等の利用者の希望を把握している。意向の把握が困難な場合は、生活歴や眼の輝きなどを認知症が進行するまでの過程と比較して汲み取り、その情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴やかかった病気、家族構成などが書かれたファイルがありいつでも手に取り確認することができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、検温し記録に残し食事量や発言などを記録して全職員が確認できるようになっている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の意見を尊重しリクエストシートを作成し本人がよりよく暮らせる為に日々話し合いに努めている。</p>	<p>入所時には、センター方式を採用してアセスメントを行い、3か月間の生活支援計画書を作成し安定した生活が行えるかを見極めている。その後、計画作成担当者が職員から利用者の情報を取得し、モニタリングの実施を経て、利用者の状況に応じた目標を設定した生活支援計画書を作成している。生活支援計画書は、介護保険更新時に見直すことを基本とし、状況に変化があればその都度計画を見直している。家族や医師等の意見や情報も反映し、生活支援計画書を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子などくわしく記録し職員間で情報共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に入居者のニーズに対応し、適した支援ができるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	専門医や美容室や商店など地域の情報を提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療時に利用者と医師が直接話しをし職員が間に入り最近の体調などの報告相談し、専用のノートに記録している。またそれを請求書に転記してご家族も共有している。	利用者は、月2回協力医療機関の医師（内科・循環器科）の往診を受けている。歯科医師は週1回来訪し希望者の口腔ケアや治療を行っている。眼科など専門医の受診は、家族が同行している。その際は受診結果を聞き取り申し送りノートに記載し内容を共有している。週1回非常勤の看護師が利用者の健康観察をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	最近の体調などを伝え訪問看護師から助言をもらった場合は申し送りノートに記録しいつでも確認できるようになっている。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の情報をまとめた用紙に加えスタッフによる口頭での日常注意点などを伝えている。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご本人、ご家族、医師、現場のスタッフと話し合い方針を共有し支援に取り組んでいる。	契約時に重要事項説明書の「重度化した場合の指針」で事業所の方針を家族などに説明し共有している。利用者の状態変化に伴い、協力医による本人・家族等の意思の確認、今後の対応の検討をしている。近年は、本人・家族などの希望で、介護療養型医療施設へ移っており、看取りは実施していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を1年に1度受講していたが今年度は開催が中止となっている。		

35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>施設内に水消火器をもってきてもらい消防官と一緒に消火訓練をしていたが、今年度は中止となった。</p>	<p>2020年7月に夜間の火災を想定した自主防災訓練を実施し、10月は災害時食事訓練を実施しアルファ米の試食などを行っている。ハザードマップで災害リスクのない場所である事を確認している。災害時の備蓄品として乾電池、発電機、ガスボンベ、ブルーシート、ポータブルトイレ、ペーパータオル、アルファ米のカレーやチキンライス、ビスケット、水、米などを準備している。利用者個々の避難用リュックサックを準備している。家具や家電などへの転倒防止策をしている。町内会主催の「災害支援プロジェクト」に参加して、事業所が 災害時の「いっとき避難場所」の指定を受けて地域と協力関係を築いている。</p>	<p>新型コロナ禍で町内会の活動が中止になり「神田園のいっとき避難場所を利用する可能性のある高齢者の把握」という昨年度の目標達成計画が進捗していません。新型コロナ終息後に、引き続き取り組み、地域との協力関係が更に深まることを期待します。</p>
----	----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	神田園の大原則に基づきまごころの気持ちをもって接し、人生の大先輩、尊厳を大切に多くを学ばせて頂くという気持ちで対応しています。	全職員に同一内容の研修を提供できるメリットがあるオンライン研修を採用し、接遇について学んでいる。排泄の失敗時には「さっぱりしましょうか」などの声掛けをして人目に触れないよう配慮している。呼称は「さん」付けすることを基本にしているが、入所前にどのように呼ばれていたかを確認し「様」と呼ぶ方もいる。「もしよろしければ何々させてください」、「何々している所をすみません」等の言葉かけをして、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望を伝えやすいように工夫し傾聴しそれができなかった場合には他の選択肢を提案し自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者さまの体調や能力に配慮しできるだけ希望にそって支援している。		

39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>スタッフが決めるのではなくご本人様に確認し選んでいただけるよう配慮している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用様の食べやすい大きさ、やわらかさにして提供している。配膳もできる方にはやって頂き、誕生日会の食事などはご本人様が食べたいものを聞きメニューに入れている。</p>	<p>配食業者の献立に従い朝食は、職員が調理をし、昼食と夕食は、食品を湯煎して提供している。利用者の食形態に応じて「刻み食」や「トロミ食」を提供している。ラーメンなどの利用者の好みの品は、業者が柔軟に対応し、用意してもらっている。誕生日会やクリスマス会などの行事では、利用者の好みの食事を提供するなどして食事を楽しめるようにしている。利用者は職員と一緒に配膳や下膳、食器拭きなどを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を具体的に記録し、十分ではない方には栄養補助食などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に口腔体操を行い食後には口腔ケアの声掛けを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し一人ひとりにあった声掛けや誘導をしている。	職員は「排泄チェック表」で利用者の排泄のリズムを把握し、トイレでの排泄を促している。リズムを把握した事で、パットなどの交換頻度が軽減した事例がある。おむつ交換時の負担軽減や睡眠を優先して、夜間は、パットの形態を変える方など、利用者に応じて個別に支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し下剤が必要な場合は医師の指示のもと単位を変えて対応している。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>体調不良時、気分が乗らない時などを避けて利用者様の希望やタイミングに合わせて支援している。</p>	<p>週2回の入浴が基本であるが、回数や時間は希望に応じている。入浴を好まない方には、無理強いせず、職員や日時を変えて声掛けし支援している。現在、毎日の入浴を希望する方はいない。同性介助の希望に応じている。利用者はCDを聞きながら入浴したり、職員と会話をして入浴を楽しむ方がいる。</p>	
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転をしないためにも日中レクや計算、漢字プリントなどで頭や体を使っていただき夜間しっかり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ボード、チェック表にて職員がサインをし誤薬、忘れがないか確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日やクリスマス会、レクを行い、楽しみがもてるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さまの体調を考慮し外気浴やエアロバイクなどの声掛けを行っている。	車で花見などに行く機会を作っているが、今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため散歩などの外出を自粛している。散歩の代わりに、気分転換や筋力維持のためベランダでお茶を飲むなど、外気浴をして気分転換につなげている。日常的に行っていたエアロバイクや階段の上り下りで、筋力低下を防いでいる。さらに新型コロナウイルス禍でボール投げ、ラジオ体操などの運動をレクリエーションに取り入れている。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持参されている方は事務所の金庫にてお預かりしてしっかりこちらで預かっていることを説明している。</p>		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は電話して頂いたり、年賀状のやりとりなどもできるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬は加湿したり、温湿度を管理し、季節ごとにフロアに飾りをつけて季節感を楽しんでもらえるようにしている。	リビングはレクリエーションを2つに分けて実施することができる程の広さがあり、明るい。テレビを2台設置しており、音量に配慮し、椅子のレイアウト変更など、利用者の希望を反映して、くつろぐ場所を確保している。冬季は濡れタオルや加湿機で適切な湿度を保つようにしている。正月の松飾りや雛人形を飾り季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士でお話できるように食席のレイアウトを適宜変え工夫している。		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使っていた物や写真を配置しリラックスできるよう配慮している。</p>	<p>事業所が備えた換気扇、エアコン、ナースコール、押し入れがある。利用者は、カーテン、ベッド、整理ダンス、カレンダー、写真、習字道具一式、冷蔵庫、仏壇、ミシンなど、思いおもいの物を持ち込んでいる。所持品について「入所前のレイアウトを再現することでリロケーションダメージを減らせる」ことを家族などに伝え、写真を撮ってもらい再現している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室ドアには名前を貼り、トイレには使用しているのか利用者さまが確認できるよう札を付け間違えて明けてしまうトラブルを防いでいる。</p>		

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	ばら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し常に確認できるようになっている。また、その理念どおりに利用者さまに提供できるよう日々努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事参加、ボランティア（マンドリン、紙芝居）とのつながりがあるが今年度は中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交わりあいを大事にし、表の掲示板に介護相談の案内を出し随時受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	玄関の洗面台にうがいコップ増設、防犯システム導入、危険物の保管場所に関して意見を反映させた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の月の行事や出来事をオブザーバーのケアプラ職員に報告し、地域の行事にも参加させて頂いたり地域との関係を大事にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーや見守りの中で安全を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフはEラーニング研修システムで受講している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が研修をうけご家族と話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が窓口となることで説明に間違いや伝え間違いがないようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	リクエストシートがありスタッフ、利用者、家族が困っている事、欲しい物などが記入できる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リクエストシート、意見箱の設置。管理者は積極的にスタッフとコミュニケーションをし職員の思いや意見、家庭の悩みなどにも耳を傾けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度においてより高度な介護がしたいと思う向上心にたいし支援している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフはEラーニング研修システムで受講している。また指導する立場の職員が現場に入りトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が地域のグループホーム管理者と会合、地域包括支援センターのイベント、地域のイベントで交流・協働している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者は本人、家族との面談で事情を把握し体験入居をしてから決定していただくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族と積極的にお話をしコミュニケーションをはかり、意見交換、信頼関係構築をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が本人や家族の状況だけではなく、住んでいる利用者への影響なども考慮して入居の可否を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が得意な事は積極的にやっていたりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の会話の中で家族の話もとり入れると同時に面会に来て頂いた際には写真を撮るなどして絆を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出がスムーズになるよう支援しています。また面会に来られた際はその空間・時間を大事にしてゆっくりとお話しして頂ける様努めている。手紙や電話で知人との関係を維持している方への支援。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ、利用者でラジオ体操をしたり、歌を歌ったりする時間を作っている。必要にあわせてレイアウトや食席替えをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去＝関係の終わりとは考えず必要があれば転院先への情報提供はもちろん相談に応じています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声掛けは「～していただけますか？」と説明提案式にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント書式を用いてご本人視点での生活歴や趣向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の日々の生活リズムに合わせてその日その日でケアしていくようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の話しをしっかりと聞き責任者に報告したりリクエストシートを使ったりしてより良い生活ができるよう努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践など細かな事でも記録に記入し情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ、利用者が使用できるリクエストシートがあり支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年では鶴ヶ峰地域ケアプラザのふれあい祭りなどに参加し地域のボランティアや団体などと交流するが、今年度は祭りは中止となった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療時にきさくに会話することができ医師との信頼関係づくりを支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のささいな変化や疑問に思った事や気づきを伝え助言をもらったものについては申し送りノートに記載し広めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報をまとめた用紙に加えスタッフによる口頭での日常注意点などを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に管理者がご本人、ご家族、医師、現場の希望を考慮し、事業所として出来る事と出来ない事を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を1年に1度受講することを法人で決めているが、今年度は開催が中止となっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡や消火訓練をした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報外部に目の届かない場所に保管してある。神田園の大原則を心得て尊厳を意識した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	神田園文法を用いて「～ませんか？」という説明提案の声掛けと肯定的な返答を行ない、利用者の自己決定を支援できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	スタッフの都合を優先してしまう場合もあるが、ご自身のタイミングを大切にできるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などどこに何があるかわかりやすいようにご本人と整理し衣替え時にご本人さまと一緒に使う物、使わない物を分けています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普通食、ムース食を提供している。また噛みにくいものはミキサーで食べやすくしている。食事は全員で同じ時間に食べている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録しその方にあった食事量水分量を医師に相談しながら調整している。糖尿病の方には量の管理をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛け、自分でできる方は自分で行えるよう環境を整えています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表から排泄パターンを知り、その方にあった時間で声掛けをしている。自分でトイレに行くが失敗がある方には自尊心を傷つけないよう配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の好みにあわせた飲み物で水分量が少なくならないよう配慮している。またラジオ体操など規則正しい生活になるよう配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限り希望やタイミングに合わせた入浴支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況をみて臥床時間を設けたり夜間はご本人さまのペースで居室で過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルに薬の説明書をつけてある。服薬ボードで服薬の状況が確認できる。薬の確認はスタッフ二人で確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日本漢字能力検定協会の「漢検」に挑戦したり、洗濯物たたみやテーブル拭きなどお手伝いをしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車で遠出することもたまにあったが、今年度は外出イベントは中止している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持参している方はいません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したり手紙を書いたりしている。また新しくオンライン面会ができるようになった。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と季節感を感じられる装飾を行っている。温度湿度を測定し過ごしやすい空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、和室、食席、ベランダなど好きな場所でのんびり過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の家族と相談し使い慣れた物、使いやすいものを部屋に置くなど工夫している。入居後の生活に合わせて移動したり撤去して安全にも努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手洗い石鹸、手拭き用など利用者が少しでも自律的に生活できるよう掲示や表示に配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グローバル-α 神田園

作成日 2021. 5. 17

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	地域との協力体制の構築	神田園のいっとも避難場所を利用する近隣住民との交流。	町内会と合同でいっとも避難場所を利用した避難訓練を行う	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。